

溶連菌(ようれんきん)感染症

溶連菌感染症について

のどが痛くなる病気の多くはウイルスが原因ですが、中には細菌が原因のことがあります。そのうちの一つが溶連菌感染症です。子どもに多く、注意が必要です。4～10歳の学童に多く、3歳未満の年少児にはまれといわれています。溶連菌は主にのどに感染し、咽頭炎や扁桃炎、細かい発疹を伴う猩紅熱(しょうこうねつ)といった病気を起こします。時に皮膚に感染して、とびひなどの原因になることもあります。



主な症状は発熱(38～39度)とのどの痛みです。からだや手足に細かい発疹が出たり、舌にイチゴのようなつぶつぶができることもあります(イチゴ舌)。また首などのリンパ節が腫れることもあります。風邪と違って咳や鼻水はあまり目立ちません。この病気には潜伏期間があり、感染してから症状が出るまでに約2～5日かかります。

合併症は？

溶連菌感染症では、時に心臓弁膜に障害を起こすリウマチ熱や、急性糸球体腎炎という腎臓の病気など合併症を起こします。

再発と家族への感染

溶連菌感染症は、繰り返しかかることがあり、大人でもかかります。咳やくしゃみなどによる飛沫感染ですので、家族や兄弟への感染には注意しましょう。

1~2日
で解熱
します

治療法は？

溶連菌感染症の疑いがあると医師が判断すると、のどの検査をして調べます。
溶連菌の感染とわかれれば、熱やのどの痛みといった症状を和らげるお薬のほかに
抗生物質が出されます。

お薬を飲みはじめると **1～2日**で解熱し、のどの痛みも和らぎます。

確実に溶連菌を退治して合併症を起こさないためには、
症状が消えてもしばらく抗生物質は飲まなくてはいけません。

薬の種類によって服用期間は異なりますが、**10日間の内服**
が必要な場合もあります。がんばって飲みきってください。

抗生物質を飲みはじめて2～3日たっても
熱が下がらず、のどの痛みもよくなる
ときは再度受診してください。

大人や兄弟にも
うつるので
手洗い・マスクで
しっかり予防して
ください。



家庭での ケア

Point

刺激の強い食べ物は避ける

「熱い」「辛い」「酸っぱい」
など、のどに刺激の強い
ものは避け、のど越しが
良く、消化の良い食べ物
がおすすめです。
食べるのが辛ければ無理
せず、水分をしっかりと摂っ
てください。

解熱して
のどの痛みがなくなれば
登園登校は可能です



熱い
冷たすぎる
辛い
酸っぱい
苦い

のどごしがよい

ゼリー・ヨーグルト・パバロア・
プリン・ポタージュスープなど

消化がよい

おかゆ・パン粥・煮込みうどん・
煮た野菜・豆腐・
茶碗蒸し・白身魚など



潜伏期間 2～5日 改善まで 2～3日程度